明石市立文化博物館　年報　二〇二五

明石市立文化博物館

年報

2025

Annual Report
Akashi City Museum of Culture

AKASHI BUNPAKU

明石市立 文化博物館

年報 2025

Annual Report
Akashi City Museum of Culture

明石市立文化博物館

【ロビー】

【東テラスからの風景】

常設展示
【畿内への入口・明石】

常設展示
【鴟尾】

常設展示
【明石焼】

常設展示
【明石の漁業】

常設展示
【アカシゾウ】

Message

明石市立文化博物館は、歴史、民俗等に対する市民の理解を深めるとともに、市民の文化の向上及び振興に資する目的で、設置されました。

1991年10月の開館から、2007年3月までの16年間は市による直営、2007年4月から2016年3月まで9年間は指定管理者による運営、2016年4月から現在にいたる9年間は業務分割方式により一部指定管理者による運営がなされています。設置目的のうち「歴史、民俗等に対する市民の理解を深める」という部分を明石市が、「市民の文化の向上及び振興」の部分を指定管理者が担っています。具体的には、博物館資料の収集、保管、展示、調査研究に関すること、常設展示室の展示等運営に関すること、市の歴史、民俗、郷土作家に関わる企画展の開催に関すること、明石の歴史・文化及び芸術・文化の教育普及に関することを明石市が担っています。管理運営業務、施設管理業務、特別展業務、広報業務、貸館業務、受付・問合せ対応業務、その他の業務については指定管理者である小学館集英社プロダクション・鹿島建物共同事業体が担っています。

2024年8月より、明石市は「ぶんぱくのあり方検討会」を設置し、今後の運営のあり方等について有識者の方からのご意見や、市民ワークショップを実施するなどして、検討を重ねてきました。その結果、2028年度以降の基本理念は“明石の「文化と歴史」の拠点　市民をつなぐ博物館”とすると提言がまとまりました。

博物館の行く先ははっきりとは見通せないなかではありますが、過去をふりかえりつつ、この博物館にしかできないこと、そして現在と未来の市民のみなさまにとって誇りに思っていただけるような博物館を目指してまいります。本年報の発行により、きちんと過去と現在に目を向け、未来を見つめるための手立てとしてまいります。さらに、公開していくことで、市民のみなさまや有識者の方からの批判により、博物館活動を鍛えていければと存じます。

最後になりますが、これまで当館の活動を暖かく見守ってくださったみなさまに感謝申し上げるとともに、引き続きのご支援・ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

2026 年 3 月 31 日　**明石市立文化博物館**

Contents

Ⅰ　博物館の概要

1　施設概要 …… 002

2　組織と体制 …… 004

3　博物館の運営方針 …… 004

Ⅱ　事業概要

1　調査研究事業

(1) 組織体制 …… 007

(2) 個人別研究成果 …… 010

2　資料収集保存事業

(1) 収蔵資料概要 …… 012

(2) 特別利用実績 …… 013

3　展示事業

(1) 特別展事業 …… 014

(2) 企画展事業 …… 018

(3) その他の展示事業 …… 026

4　教育普及・コミュニケーション事業

(1) ボランティア事業 …… 027

(2) MUSEUM PLAYER! 事業 …… 028

(3) ミュージアム体験プログラム事業 …… 029

(4) アウトリーチ事業 …… 030

(5) 無料開館事業 …… 032

(6) 人材養成事業 …… 035

5　広報・パブリックリレーション事業

(1) 情報発信アクセス数 …… 036

(2) 取材・撮影等の受け入れ …… 037

(3) ぶんぱくパスポート …… 037

(4) ぶんぱくパートナーズ …… 038

(5) ミュージアムグッズ …… 038

6　管理運営

(1) 入館者数・観覧者数 …… 039

(2) 貸館利用状況 …… 040

(3) 収支報告 …… 041

(4) 研修参加状況 …… 042

Ⅲ　資料編

1　明石市立文化博物館条例 …… 044

2　明石文化芸術創生条例 …… 046

3　文化博物館に関連する明石市の主要計画等 …… 047

4　過去の展覧会実績 …… 048

5　来館者数推移 …… 053

I

博物館の概要

1 施設概要

① 敷地面積 6,608.67㎡
② 建築面積 2,160.03㎡
③ 延床面積 5,039.27㎡
（本館棟 4,942.60㎡／レストラン棟 96.67㎡ ）
④ 構造　本館棟 鉄筋コンクリート造／地階１階・地上２階
レストラン棟 鉄骨造
⑤ 建築年月 1991年２月 （1991年10月開館）
⑥ 階層別施設概要
１階：常設展示室、特別展示室（142.5㎡）、ロビー、事務室、バックヤード、作業室、体験学習室、文化財担当室
２階：ギャラリー（356.4㎡）、大会議室（収容人数100人）、平和資料室、市史編さん担当室
地階：第１収蔵庫、特別収蔵庫、倉庫、書庫、機械室・電気室
屋階：階段室

⑦ 常設展示室
常設展示は、明石の歴史と文化を、「自然環境と人々の暮らし」と題して、8つのテーマで紹介しています。

明石のあけぼの
雌雄２頭のアカシゾウの骨格標本を並べ、ゾウがいたころの明石の姿を紹介しています。また、人類の起源をめぐって議論されている「明石原人」をとりあげ、さまざまな角度からその謎にせまっています。

大昔の明石
狩りをして生活をしていた旧石器時代から土器を使い始めた縄文時代、米づくりが広がった弥生時代、幣塚古墳に代表されるような墳墓をもつ古墳時代までの明石の姿を取りあげています。

畿内への入口・明石
畿内への入口にあたる明石は、古代から都と地方をむすぶ陸と海の交通の要でした。文化の交流が盛んだった明石は、多くの文学作品にも取りあげられています。ここでは『源氏物語』を中心に境界としての明石を紹介しています。

明石の焼き物
明石は、豊かな粘土と水運の便に恵まれ、古くから焼き物づくりが盛んでした。大きな鴟尾をはじめ角杯形土器や明石焼など、明石で焼かれた代表的な焼き物を展示しています。

明石の農業
明石の農業が盛んになったのは、新田を開発したことに始まります。江戸時代のため池・用水路づくりをはじめ、今に伝わる農家の年中行事、農具の移り変わりなどを紹介しています。

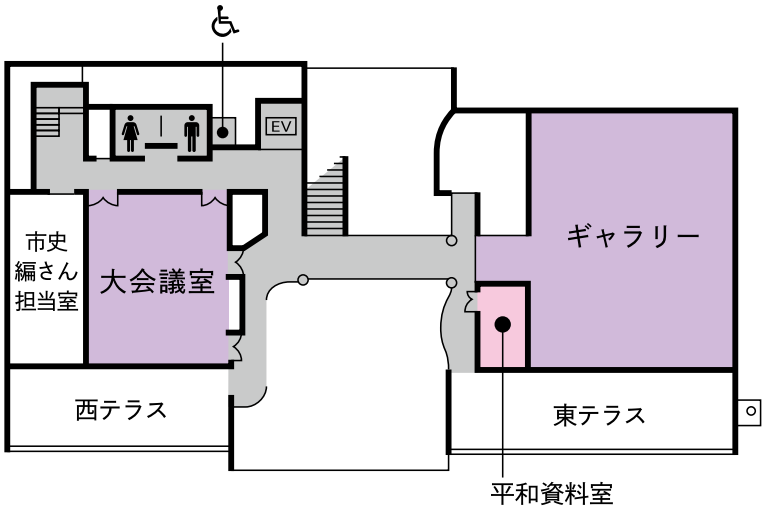
明石の漁業
明石海峡の速い潮流と複雑な海底が「魚の宝庫・明石の海」をつくっています。そこでは「明石ダイ」「明石ダコ」などいろいろな魚介類が漁獲されています。明石での特色ある漁法を漁具と映像で紹介しています。

明石城と城下町
明石城は譜代大名の小笠原忠政によって「国堅めの城」として築かれました。藩政のもとでの数々のできごと、宮本武蔵の計画と伝えられる町割と人々のくらしを取りあげています。

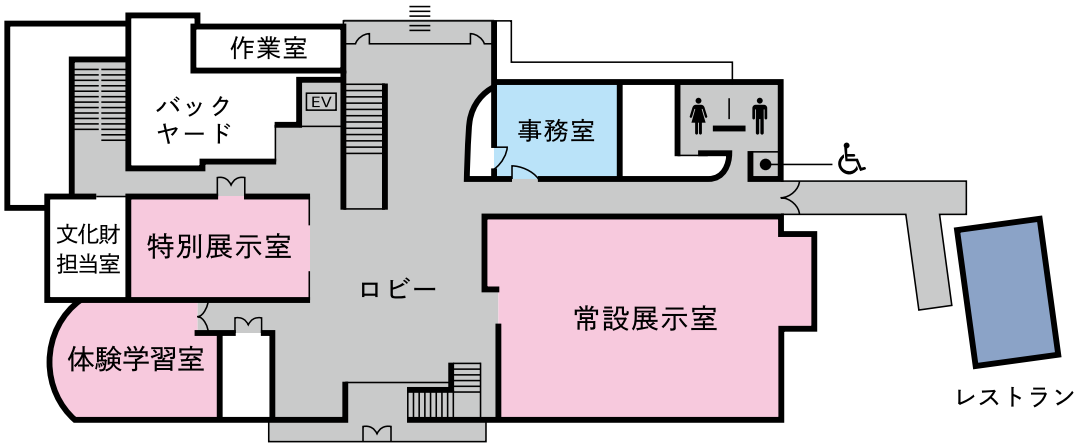
のびゆく明石
明石市は1919年11月1日に兵庫県で4番目の市として誕生しました。その後、町村合併、戦後の復興期を経て、現在の明石市に至っています。明治から現代までの明石市のあゆみをたどっています。

⑧ 館内図

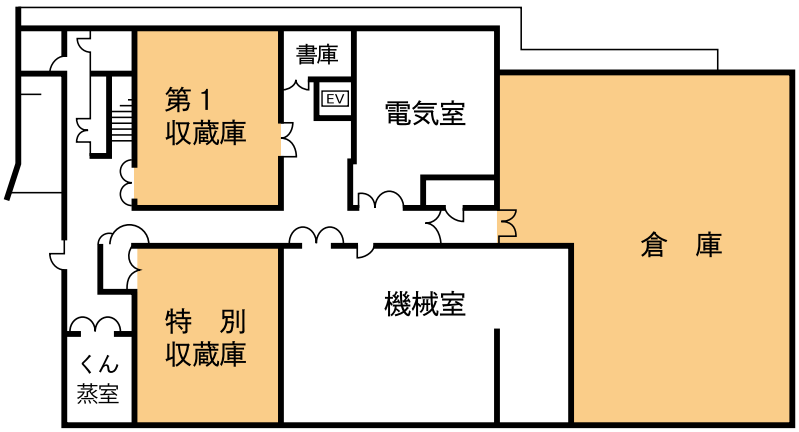
2F


EV
市史
編さん
担当室
大会議室
ギャラリー
西テラス
東テラス
平和資料室

1F

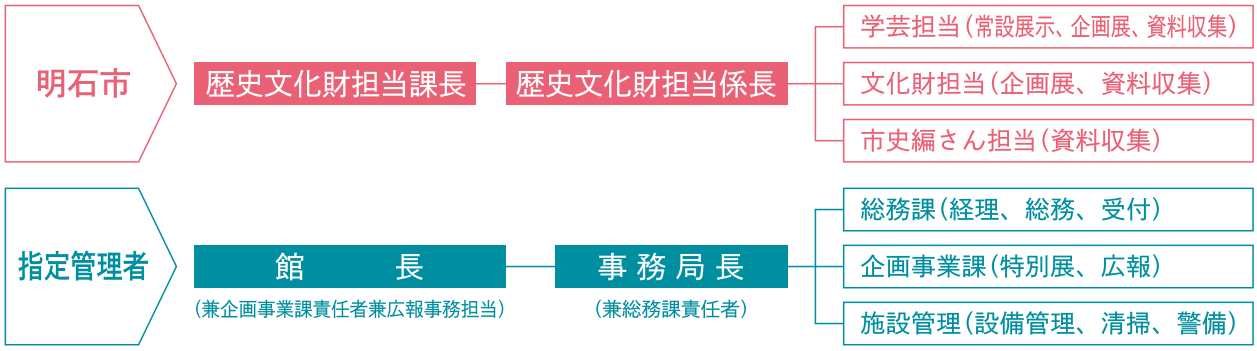

作業室
バック
ヤード
EV
事務室
文化財
担当室
特別展示室
ロビー
常設展示室
体験学習室
レストラン

B1


書庫
EV
第１
収蔵庫
電気室
倉　庫
機械室
特　別
収蔵庫
くん
蒸室

2 組織と体制

業務分割方式の指定管理制度による運営のなか、明石の歴史・文化財に関する業務については常設展・企画展を中心に明石市の学芸員が担当しています。2025年度～2027年度まで特別展・パブリックリレーション業務・管理運営業務等については、小学館集英社プロダクション・鹿島建物共同事業体が担っています。



3 博物館の運営方針

指定管理者である小学館集英社プロダクション・鹿島建物共同事業体では、
運営方針を**「みんなでつくる　だれにでもやさしい　文化芸術の入口」**と設定いたしました。

■ 運営方針

みんなでつくる

・市民一人ひとりの自主性及び創造性が尊重される「みんなでつくる」博物館を目指します
・過去から培われてきた地域の文化や芸術を市民の財産として継承させ、発展させるとともに、魅力ある新しい文化芸術が創造される「みんなでつくる」博物館を目指します
・文化芸術を担う人材の育成を図り「みんなでつくる」博物館を目指します

だれにでもやさしい

・文化芸術活動が市民の権利であるととらえ、市民が等しく文化芸術活動ができるような環境の整備がなされた「だれにでもやさしい」博物館を目指します
・市民一人ひとりの多様な文化芸術及び価値観を理解し、尊重することにより、互いの文化芸術の発展が図られる「だれにでもやさしい」博物館を目指します

文化芸術の入口

・次代を担う子どもたちの心や感性、創造性やコミュニケーション能力を豊かに育むことができる「文化芸術の入口」としての博物館を目指します

上記の運営方針に基づき、さまざまな困難を抱えた方にとっても楽しんでいただけるような工夫をした特別展を実施しています。また「あかし若手アートチャレンジ」という近隣の高校・大学の美術科・美術部とともに、みんなでつくる展覧会を実施しています。

また、十二単・鎧の着付体験、さをり織体験、展示解説、図書の受け入れ、発送作業を担うボランティアなどが活躍しています。博物館と人をつなぐミュージアムプレイヤーとよばれるボランティアも活動を行っており、みんなでつくる博物館づくりを目指しています。

体験プログラムでは博物館の資料を触ったり、作ったりする体験を通じて、より資料に対する理解が深められるワークショップを実施し、文化芸術の入口となるようにと考えています。

さらに毎年３回程度、観覧料を無料にする無料開館日を設定し、さまざまなイベントを実施し、博物館に馴染みがない方にとっても楽しんでいただけるような取り組みを実施しています。